

北区が誇る木偶師

九代 玉屋庄兵衛



児童虐待防止推進月間



からくり人形

× オレンジリボン



子どもを虐待から守るのに
理由はいらない

児童相談所虐待対応ダイヤル

189
いち はや く

オレンジリボンを
付けた茶運び人形の展示

11月10日（日）～15日（金）

於：北区役所1階ロビー展示コーナー



児童虐待について
の連絡方法

北区役所民生子ども課 ☎ 052-917-6515



からくり人形

山車の上で華麗に舞い踊る山車からくり、座敷でお茶を運ぶ茶運人形、弓に矢をつがえる的に当てる弓曳童子。こうした「からくり人形」は、長い歴史を持っています。



からくり人形は、江戸初期から中期にかけて急速に発展を遂げました。

寛文二年(1662)に大阪道頓堀で旗揚げ公演された『竹田からくり芝居』が評判となり、江戸や尾張など全国各地で興業がおこなわれ、評判を博したことで、多くの日本人がからくり人形を楽しむようになったといわれています。

からくりは、江戸では歌舞伎の"外連(けれん)"に、関西では"人形浄瑠璃"に、そして尾張では"山車からくり"と"座敷からくり"に発達を遂げました。

今回展示する茶運人形は、「座敷からくり」の一種です。



九代 玉屋 庄兵衛さん

尾張で『からくり人形』を発展させたのが歴代の玉屋庄兵衛です。



尾張藩七代藩主徳川宗春の治世、「芸どころ名古屋」として名古屋が大きく発展したころ京都から、からくり人形師が移り住み、玉屋庄兵衛と名乗りました。それ以降、約290年以上に亘り、尾張のからくりの技術を支え続けているのです。

現在の九代玉屋庄兵衛さんは、名古屋市北区の自宅兼工房において、各地の山車からくりの復元修復と創作からくりの製作を行うだけでなく、日本全国、世界各地において、からくり人形の技術と文化の継承や発展に貢献しており、その活躍がたたえられ数々の賞も受賞しています。令和元年には、文化活動に優れた成果を示し、我が国の文化の振興に貢献された方々、又は、日本文化の海外発信、国際文化交流に貢献された方々に対しその功績をたたえ文化庁長官が表彰する「文化庁長官表彰」も受賞しました。

また、マサチューセッツ工科大学(MIT)の学生向けプログラム「Japan-Program」にて「玉屋庄兵衛の世界」を開催するだけでなく、からくりの実演がMITの研究室でも紹介されるなど、その活躍の場は海外にまで広がっています。

オレンジリボンキャンペーン

「オレンジリボンキャンペーン」は、児童虐待防止のシンボルであるオレンジリボンの普及を通して、児童虐待問題に対する関心と理解が得られるよう、広報・啓発に取り組む活動のことです。

名古屋市では毎年5月と11月を「児童虐待防止推進月間」と定め、オレンジリボンの普及を通して児童虐待問題を広く市民の皆様に周知してきました。

オレンジは、子どもたちの明るい未来を示す色として選ばれたと言われています。子どもの虐待の現状を広く知らせ、子どもの虐待を防止し、子どもたちが幸福になれるように、という気持ちが込められています。

からくり人形×オレンジリボンに込めた思い (北区民生子ども課)

児童虐待の防止、オレンジリボンキャンペーン。この言葉だけを聞くと、自分とは無関係のことのように思える。

『わたしが通報するの?』間違っているかもしれないし、「だれか」が通報するだろうから、と見過ごしてしまう。

でも、その「だれか」の助けを求めている子どもたちがいる。「だれか」でなくて、「わたし」が、「あなた」が行動することで救える子どもの未来がある。間違ってもいい、1本の電話で救える命があるかもしれない。

1人でも多くの人にこのキャンペーンを知ってもらうことで、児童相談所虐待対応ダイヤル#189や児童虐待の現状の周知、そして児童虐待の防止につながってほしい。

北区が誇る木偶師(でくし)、九代 玉屋庄兵衛さんのからくり人形を見つめるまなざしに心を打たれた。愛おしい子どもを見つめる親のそれと重なった。

「からくり人形」と「オレンジリボン」という、一見異色に見える組み合わせが『オレンジリボンキャンペーン』に興味をもつきっかけになったといい、そして、心を込めて作られた「からくり人形」を多くの人にひとめ見てもらいたい、そんな思いから今回の企画は始まった。

人々を楽しませる美しい「からくり人形」は名古屋の文化芸術の源に、そしてその精巧な技術は産業の発展の源になったと言われている。

北区が誇るこの伝統工芸「からくり人形」を通して、一人でも多くの方々に「オレンジリボン」に込められた思いが届きますように。



KITA Jazz!



まるっとすまいる大作戦

